

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520106

研究課題名(和文)ゴシック黎明期北イタリアの修道会美術研究 エミリア地方を中心に

研究課題名(英文)Early Gothic Art of Northern Italy - Monasteries in Emilia

研究代表者

児嶋 由枝 (Kojima, Yoshie)

上智大学・文学部・准教授

研究者番号：70349017

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：12世紀後半の北イタリアでは、ロンバルディア・ロマネスクが独自の様式・図像を展開していた。すでにこの時期の北イタリア中世都市国家の聖堂に関わる美術の展開については研究が進められている。しかし、この展開に重要な役割を担ったとされる北イタリアの修道会美術に関してはいまだ多くが詳らかでなかった。こうした状況をふまえ、本研究では、エミリア地方の三修道院(キアラヴァッレ・デッラ・コロンバ、フォンテヴィーヴォ、カスティオーネ・ディ・マルケージ)に焦点をあてて調査を実施した。特にゴシック様式の導入、都市聖堂との関係、そしてアダムとエヴァ彫刻図像について新たな視点を提起することができた。

研究成果の概要(英文)：During the second half of the 12th century, the so-called Lombard Romanesque art was evolving into Gothic in a very distinctive manner. To elucidate its artistic circumstances, the present study has investigated three monasteries in Emilia of Northern Italy, such as the Cistercensian Chiaravalle della Colomba and Fontevivo, and the Benedictine Castione dei Marchesi, besides the Italian city-state cathedrals of Piacenza, Lodi and Fidenza.

A new perspective was found regarding the political factors behind the introduction of French Gothic, the relationships between monastic workshops and cathedral workshops, and the iconography of the Adam and Eve in the main portals.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学美術史

キーワード：ロマネスク ゴシック シトー会 ベネディクト会 大聖堂工房 アダムとエヴァ図像

1. 研究開始当初の背景

報告者はこれまで、上記三修道院近隣に位置するフィデンツァ大聖堂を中心に研究を遂行してきた。そして、同大聖堂の建築・彫刻工房が、これら修道院工房と深い繋がりを持っていたこと、また、それ故にフィデンツァ大聖堂にはイタリアでも最初期にフランス・ゴシック建築様式が導入されたこと、さらに、彫刻においても修道会と関係する特異な図像が認められることを明らかにしてきた。

また、その背景には、近隣の強大な都市国家に対抗して勢力拡大をはかっていたパラヴィチーノ家の政治意図があったことも解明してきた。ギベリン派のパラヴィチーノ家は、シュタウフェン朝皇帝を後ろ盾に、高度な開墾技術を誇る修道会や交通の要衝である小都市フィデンツァの聖堂を勢力下に置いたが、同一工房がこれらの聖堂で造営に従事していたのである。そして、この工房こそが、北イタリア独自のゴシックの嚆矢となったのである。

2. 研究の目的

(1) 北イタリアの修道会建築にゴシック様式が導入された時期について

従来、12世紀末から13世紀初頭と考えられており、現在でもほぼ定説となっているが、近年は1170年代初頭にまで遡らせる説も提示されている。そして報告者は、フィデンツァ大聖堂造営過程解明により、この説を補強した。この説は、北イタリア建築・美術の展開の枠組を変更しうるものであり、現在、イタリア中世美術史学の重要な論点の一つとなっている。

これをふまえて報告者は、キアラヴァッレ・デッラ・コロンバおよびフォンテヴィーヴォ修道院を中心とした北イタリアのシトー会修道院、さらにこれらと関係のあるベネディクト会修道院カスティオーネ・デイ・マルケ

ージ対象を拡げ、北イタリアへのゴシックの導入時期の状況を検証した。

(2) アダムとエヴァ彫刻図像について

研究の対象となったアダムとエヴァ図像は、修道院回廊柱頭彫刻、および修道会と関係のある都市の聖堂の扉口彫刻に認められるものである。いずれにおいても独自の図像によって原罪が強調されている。研究では、1215年のラテラノ公会議における「告解の秘蹟」の正式認定との関連が主眼となった。

この問題に関して報告者はすでに、2009年5月に開催された第45回国際中世学会（於：カラマズー、米国）で、研究の状況を発表している。そこでは、応募者が調査したピアチェンツァ大聖堂古文書館蔵の12世紀の秘蹟書(Sacramentarium)にみられる「告解の秘蹟」の内容を報告した。このテキストの内容は、本研究のアダムとエヴァ図像研究において重要な手掛かりの一つとなった。

3. 研究の方法

(1) 現地調査はエミリア地方西部に位置する3修道院キアラヴァッレ・デッラ・コロンバ、フォンテヴィーヴォ、カスティオーネ・デイ・マルケージ、およびこれらの修道院と政治的に関連する2つの都市聖堂、すなわちローディ大聖堂とピアチェンツァのサンタントニーノ聖堂の、5箇所において実施した。さらに、これらの建築・彫刻の細部を撮影し、データベース化した。特にヴォールトの形状と彫刻については、詳細な画像をその配置情報とともにデータベース化を行った。

(2) パルマ国立古文書館、ピアチェンツァ国立古文書館、ピアチェンツァ大聖堂参事会古文書館、サンタントニーノ聖堂参事会

古文書館(ピアチェンツァ) ローディ大聖堂参事会古文書会において古文書調査を実施した。

(3) 主要美術史研究所における関連研究資料の蒐集・考察をした。対象となる関連研究資料は、出版一次史料と研究書・研究論文である。出版一次史料については、特にバチカン聖使徒図書館で調査を進める。研究書と研究論文については、ドイツ国立フィレンツェ美術史研究所(フィレンツェ) フィレンツェ国立図書館、およびローマのヘルツィアーナ図書館が中心となった。

4. 研究成果

(1) シトー会修道院キアラヴァッレ・デッラ・コロンバおよびフォンテヴィーヴォ、そしてベネディクト会修道院カスティオーネ・デイ・マルケージの造営過程を、現地調査と古文書館での史料調査によって明らかにした。様式・技法の調査・解明の他、ゴシックの導入に大きな役割をになった封建領主パラヴィチーノ家およびシュタウフェン朝皇帝権と修道会との関わりについても解明を進めた。

こうした作業によって、北イタリアへのゴシック建築様式導入の1170年代初頭説が確定されうると考えられる。同時に、いまだ議論の多い、イタリアにおけるシトー会建築の展開についても、より蓋然性の高い説を呈示することができた。

(2) アダムとエヴァ図像については、まず、中世の聖史劇『ordo representationis A de (アダム物語)』との関係と検討し、それを踏まえて、12世紀後半に頻繁に行われていた「公開悔悛」(public penance)との関連について調査した。そして、この図像が1215年のラテラノ公会議の決定に先立って、すでにカトリック教会が、シトー会等

の修道会を通して、告解を聖職者にも平信徒にも義務として奨励していたことと密接に関連することを、上記3修道院やピアチェンツァ大聖堂など都市内の関連聖堂に伝わる典礼書を手掛かりとしながら明らかにした。

(3) クロアチアで開催された国際学会において、本研究成果の最終報告をおこなった(下記5の学会発表)。また、この発表をもとに、国際学術雑誌に論文を執筆した(下記5の発表論文)。他にも、日本において研究経過報告を学会や学術雑誌で実施している(下記5参照)。

(4) 北イタリアへのゴシック建築導入時期を既存の有力説よりも30年程遡らせる説をほぼ確定した点、さらにイタリアにおけるシトー会建築の展開過程についても新たな視点を提示し得た点は特筆すべきである。

ところで、西欧中世における「個の誕生」をめぐる議論やミッシェル・フーコーの著作を引き合いに出すまでもなく、「告解の秘蹟」の認定が西欧中世の人々の心性に重大な影響を与えたことは、広く認められているところである。本研究におけるアダムとエヴァ図像に関する成果は、このテーマに美術史的な見地からアプローチしたものとと言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

(論文印刷中) Yoshie Kojima, “Insediamenti monastici nell’ Emilia occidentale – il monastero benedettino di Castione e i cistercensi”, *Hortus Artium Medievalium, Journal of the International Research Center for Late Antiquity and Middle Ages*, 査読有り, XX, 2014,

http://journals.academia.edu/HortusArtiumMedievalium.

(論文印刷中) Yoshie Kojima, "Reproduction of the Virgin Image of *Salus Populi Romani* in Japan", *Between East and West: Reproductions in Art. Preceedings of the 2013 CIHA Colloquium in Naruto, Japan*, ed. Shigetoshi Osano, 査読有り Tokyo, 2014.

Yoshie Kojima, "Fidenza [Borgo San Donnino]", in: *The Grove Encyclopedia of Medieval Art & Architecture*, Oxford University Press: Oxford-NY, 2013, Vol. 2, p. 52.

児嶋由枝, 「中世神聖ローマ皇帝フェデリコ二世の《鷹狩の書》」上智大学文学部史学科編『歴史家の窓辺』上智大学出版、2013年、pp. 221-242.

Yoshie Kojima, "Iconografia per Sacrum Imperium. Rilievi nella facciata del Duomo di San Donnino", in *Conosco un ottimo storico dell'arte...Per Enrico Castelnuovo*, Pisa 2012, pp. 77-82.

[学会発表](計5件)

Yoshie Kojima, *Hybridization and Juxtaposition - Latin, Byzantine and Islamic Art in the Palatine Chapel of Palermo*, The 2014 International Conference: Intercultural Hybridity in Mediterranean Civilizations, Busan, Busan University of Foreign Studies, January 24th 2014.

Yoshie Kojima, *Insedimenti monastici nell' Emilia occidentale - il monastero benedettino di Castione Marchesi e i cistercensi*, 20th International IRCLAMA Colloquium - Late Antiquity and the Middle Ages in Europe: 20 Years of Research, International Research Center

for Late Antiquity and the Middle Ages, University of Zagreb, Poreč, October 5th 2013.

Yoshie Kojima, *Reproduction of the Virgin Image of "Salus Populi Romani" in Japan*, *Between East and West: Reproduction in Art*, 2013 CIHA Colloquium in Naruto, 鳴門：大塚国際美術館, 2013年1月17日.

Yoshie Kojima, *L'arte gesuita in Giappone e Giovanni*, IV ciclo de conferencias relaciones España-Asia Oriental, Sevilla: Universidad de Sevilla, March 14th 2012.

児嶋由枝, 「北イタリア・ロマネスク聖堂ファサードの“アダムとエヴァ”—罪の図像と悔悛の扉口」, 11回新約聖書図像研究会例会(於:立教大学) 2011年12月23日.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

児嶋 由枝 (KOJIMA, Yoshie)

上智大学・文学部・准教授

研究者番号: 70349017